

	うがよい。(予算に応じた設計)	
相談体制、マニュアル整備	・木造の経験の少ない自治体にとっては何もかも初めての経験となるため、木造を行った自治体関係者に相談、アドバイスを依頼できる環境があると良い。	・埼玉の木づかい実行委員会における相談、アドバイス体制の検討
	・技量や経験の不足を補うマニュアルなどもあるが、取り組み事例における留意点や反省点などを追加し、充実する必要がある。	・既存事例について聞き取り調査などを行い、それらをまとめて「(仮称) 埼玉方式による木造公共施設整備の手引き」を作成する。
設計と監理の体制	・発注者側に工事監理をできる実務経験者がいないのが問題である。設計業務と工事監理業務を分離せずに一体の業務として発注する必要がある。	

【設計段階】

テーマ	問題点と課題	対応策
木材仕様	・部材の規格化により、コスト低減は図れないのか。	・県産木材で最も安定的に供給できる規格寸法の明確化によるコスト低減 ・一般流通部材を活用した設計の促進 ・一般流通木材に関する情報提供、木材相談体制の整備
	・県産材が調達できない場合、国産材に設計変更せざるを得ないのか。この場合、年度内調達ははたして可能なのだろうか。	・設計段階における木材相談と複数事業者からの見積りによる木材調達の確実性の確保 ・木材生産関係者による相談窓口の開設の検討
	・規格外の集成材を使用する場合は、県内工場では加工できず、割高となる恐れがある。	
	・J A S材を使用することで木材の強度が明らかとなることから無駄な使い方をしなくて済む。 ・J A S認定工場が少ないため、J A S材を使わなくて済む設計が可能な場合はそうした設計をしている。	
	・J A S材でなくても、何らかの木材の品質管理は必要である。	・含水率やヤング率などの計測の慣例化
	・梁の強度に関する情報がほしい。	・県産材のスパン表の作成
設計段階	・地元材を確かに使えるかどうか不安	○「(仮称) 埼玉方式による木造公共